



社会福祉法人 恩賜財団

東京都同胞援護会

TOKYOTO ■ DOHO ■ ENGOKAI

同援だより

2012年 新春号

<http://www.doen.jp/>



新年のご挨拶

理事長 牧野 洋一



明けましておめでとうございます。
新年を迎え、皆様のご健勝を心より
お喜び申し上げます。

本年も法人・施設の運営に当たり
格別のご指導、ご支援を賜りますよ
うお願い申し上げます。

「千年に一度」といわれる大災害となった東日本大震災から
十ヶ月あまりが立ちましたが、いまだに復旧復興が円滑に進
んでいる様子はありません。そればかりか、福島原発事故の
影響が、さまざまなところに拡がっているように思えます。被
災地の皆様が、一日も早く平穏に暮らせるようになることを
祈っております。

今年、政府の掲げる「社会保障と税の一体改革」をベースに、
社会保障や社会福祉の給付とその財源問題が大きく取り上
げられる一年になると思われれます。国民的合意が得られるよう
大いに議論がなされることを期待します。

おかげさまで、昨年は、当法人の経営する施設においては、
格別の事故もなく、夏の節電も無事に乗り切ることができま
した。また、経営面においても適切な収支を確保することがで
きました。これも、役員員一丸となって取り組んだ結果であり、
日ごろの努力に感謝する次第です。

今年も、老朽化した施設の建替えが進む予定です。むさしの
保育園とサンライズ武蔵野が竣工し、昭和郷第二保育園の改築
が始まります。更に、原町の高齢者複合施設の建設も本格化し
ます。また、引き続き有為な人材の確保と育成に努め、利用者
の皆様に良質なサービスを提供してまいりたいと存じます。

当法人は、今年も利用者本位の施設運営に努めるとともに、
地域の皆様に喜ばれる施設を目指して、一層努力してまいりま
すのでよろしくお願い申し上げます。



職員の福祉サービスク向上の 取り組みに期待する

東京家政学院大学現代生活学部

教授 西 口 守

私は、二〇二二年度もアクティブ福祉in東京において福祉保健局長賞選出のための審査員を務めさせて頂きました。この大会には毎年参加させて頂き、審査員も複数回務めさせて頂きましたが、現場が本当に大きく変わったと実感しています。

福祉はある種の職人芸で、必要なことはやさしさと経験と言われてきた時代を現場で過ごしてきたものにとつてはまさに隔世の感があります。

最近よく聞くことばにエビデンスに基づく実践があります。つまりサービスは、根拠や事実に基づいて行われることの重要性を説いているものです。これはまさに、度胸、経験、勘の実践を越えていく新しい地平で

す。すなわち、私のいまここでの支援（サービス）は、どんな理由で、何を目指して、行っているのかが問われています。だから、厳密に言えば、どんな時もこの問いに答えられないような実践はありえないし、あつてはならないのだらうと思います。

哲学者の大庭健先生は、責任を意味する英語「responsibility」は、responseからの派生語であると述べます。つまり責任というのは応答関係があることを指しているのです。すなわち、

呼びかけ、応えるという関係が責任ある関係です。それも相手が呼びかけていることに忠実に応えていく、そしてその応えに基づいて誠実に呼びかけていくという二者関係が人間関係には必要だとい

う事です。真摯に向きあひもしない、呼びかけもしない、そして応えもしないありようを、無責任といいます。その意味で、このエビデンスに基づいた実践は、応答関係の構築という意味においても重要な概念だと私は考えます。

話をアクティブに戻せば、まさに一つ一つの発表が、向き合い、呼びかけ、応えるという営みの大切さを明らかにしているように私には思えるのです。そしてそれが、抽象的なレベルの問題ではなく、利用者の痛みに寄り添って作り出されていることに私は注目しています。その痛みや困難をわが身に感じ取り、どうすれば、改善や軽減ができるのかを徹底的に利用者とともに考え抜くという姿勢こそが現場研究の意義であるように私には思えるのです。その意味でも私はアクティブの報告には意義を感じています。

さて、今回、東京都同胞援護会の機関紙『同援だより』を送っていただきました。御法人は、様々な分野で社会福祉サービスクを提供して、まさに社会のセーフティネットの一端を担われていることを実感しまし

た。その二〇二二年秋季号には、いきいき福祉サービスクと題して様々な分野の福祉サービスクの現場が紹介されています。高齢者支援グループ、障害者支援グループ、保育支援グループ、児童女性支援グループの各施設からの報告が記されています。この中で私は、生きることに困難を覚えた人に寄り添う人の姿、新しい未来に向けて努力する人間の力強さ、成長を支える人の優しさ、心の痛みに向き合い、ケアする人の想像力の尊さを感じました。社会には、本当にたくさんの生活上の課題があり、その解決に向けて利用者日々格闘する人々の存在を感じました。法律によつて区分される福祉が進む中、どうしてもセクシヨナリズムが跋扈しがちですが、御法人のようにセクシヨナリズムを超えて生活者としての横のつながりや気づきを大切にすることは重要です。

終わりに、現場で暮らす人々、支える人々が「生きるって、大変だよ、でも素晴らしい」と紙面で語りかける姿に思わず、がんばれと声をかけている自分がお伝えし、皆様へのメッセージとします。

東京都福祉保健局長賞受賞

ゆたか苑

機能訓練指導員

介護職員

申 性卓
山田 卓磨
詫摩理絵子
長嶋 裕子

今年度初めにアクティブ福祉in東京における発表のメンバーに選ばれ、以前から取り組んでいた「ご利用者に負担のかからない移乗介護の実践」腰痛ゼロを目指して」の研究発表に取り組みました。

■きつかけ

高齢者は血管が弱く、本人がぶつかった記憶がないような小さなことで(圧迫しただけでも)皮下出血して黒い跡になることがよくあります。

研究に取り進む以前のゆたか苑では、入居者の高齢化や身体の拘縮の進行、体格の変化に伴い、移乗介助の負担も大きくなり、一部のご利用者間で、皮下出血の発生が繰り返されていました。職員一人での移乗介助にも関わらず皮下出血を解消させることができませんでした。同時に腰痛に悩む職員も増えていきました。「ご利用者の皮下出血をゼロにすることはできないか?」このことが取り組みの始まりでした。

■移乗はご利用者の生活の根幹

人は、移動動作が出来なくなると、生活が一変し、生活そのものが成り立たなくなってしまうこともあります。ご利用者側から見た移乗は、自立するためのキーワードとなります。

本研究をおこなうにあたり、ベットから車椅子、車椅子からベット等に移る移乗という行為について、理論的な根拠や概念が必要であると考えました。この為、キネステティクス理論を用い、移乗は本来、障害レベルと、ご利用者の残存機能に応じて行われるものであると位置づけることから始めました。

「移乗は介護されるもの」から「ご利用者との協働作業」へと変わり、本研究の第一歩を踏み出しました。

■用具の導入に向けて

一般的に行われているリフティング抱えあげる垂直移動は重力に逆らうため、職員、ご利用者双方に負担が多く、恐怖心にも繋がります。また依存心も助長させてしまい、ADLの低下に繋がってしまうことがあります。このため、縦移動からご利用者のための横移動へ、動作を切り替えるため、移乗用具(トランスファーボード、リフト、フレックスポード)を導入し、自立性を促しながら、水平移動で負担のない移乗に近づけてゆく取り組みを実践してゆくことになりました。

■ご利用者の気持ち

取り組みを始めて一年が過ぎ、ご利用者の皮下出血は減少してゆきました。同様に職員の腰痛の悩みも解消していききました。

トランスファーボードを使用したある日のご利用者Sさんの言葉です。「今まで抱え上げられている時は脇の下が痛かった。今は、全く痛くなく本当に楽になった。相手も腰を痛めてしまうのではないかといつも心配していた」と話されていました。現在このご利用者は、お一人で移乗できるまになつていきます。

移乗介助は、私達だけの負担だけではなく、ご利用者も同じように、「痛い」「思いや」「職員への気遣い」の中でおこなわれていることを実感しました。

■研究を通じて

研究を通じて一貫してきたのはリハビリと介護の協働です。介護施設等では馴染みの薄かった移乗用具を導入するため、機能訓練指導員や理学療法士が中心となり、移乗用具を使用できる環境(車椅子やベット等)を一つひとつ整え、介護現場のスタッフ全員が移乗用具使用の正しい技術を修得していききました。時間や手間より、現在のご利用者が移りたいという主体性を支援し、ご利用者にとっての最良の方法を目指すことが結果、職員に



とつての負担も軽減する方法となり、この歯車がうまくかみ合ったからこそ、当初の目標である「負担のかからない移乗」「腰痛の軽減」に成功することができたのだと思います。

ご利用者にとつての安らぎや笑顔は、私たちにとつての元気の源です。そして職員を気遣うご利用者の言葉は、何よりの私たちの心の励みとなりました。

ゆたか苑の介護理念「寄り添う介護」に沿って、更なる自立への取り組みに向けて裾野を広げていきたいと思っております。このような研究の機会に携わらせていただいたことを心より感謝いたします。ありがとうございます。

私の夢

フジホーム

● 利用者 萩原 ふさ

私は今まで病気がらしい病気もせず、薬を飲む事もなく、元気に生きてこれました。元来、身体が丈夫というのがあるのかもしれないませんが、たかさんの方の助けがあったからだと思いません。そして、何よりも心が元気



でいられたからだと思います。心が元気であるには、あまり神経を使わず、物事を楽天的に考えるのがいいのではないのでしょうか。私は少し厳格なのかもしれません、たかさん、大人は子供に嘘を言うってはいけません。一度嘘を言うと、子供は絶対信用しなく



なります。そうになったら、きちんと叱らなくてはいけない時にも、大人は子供を叱りません。何せ子供は大人をちゃんと見ていますから。あとは、いろんな事に口をはさまず、余計な自己主張をしないように心掛けていきます。そうしないと、自分自身が参ってしまいます。自分の身

私の夢

さくらんぼ

体は自分で守らないと、誰も守ってはくれませんし。先ごろ、フジホームの職員さんと街へ出掛けました。世の中、すっかりきれいになり、街は人の活気で溢れていました。これからの子供達や若い人たちに、私のこういった思いが伝わると嬉しいです。

さくらんぼ

茜の里、さくらんぼ、みんながともだちです。そういう仲間と楽しく、仲良く過ごしていきたいと思っています。

(設楽 順子)

僕は、シュワルツネッガーにあげられています。シュワルツネッガーのように筋肉をつけたいと思っています。将来の夢は家を



買ってひとり暮らしをすることで
す。そして、仕事をして、料理を
作ったり、休みの日に大好きなD
VDを見たり、そういう普通の生
活をしたいと思っています。

(阿部 貴史)

僕は、耳のお医者さんに行く練習
をしています。お休みの日には青
年教室に参加することが楽しみで
す。これからもみんなで野球観戦
をしたり、明野の旅行に行きたい
と思います。

(吉川 敬之)

グループホーム

はなみずき

おだやかさと、心も顔も笑顔で暮
りたい。意気こまずに呼吸をしつ
つ、皇居一周をかけめぐりたい。

(福原 治子)

フランスの美術館に行きたい。

(宇賀神みき)

浅草で、お芝居をたくさん見たい。

(斉田 卓子)

私は、月に一度ガイドヘルパーさ
んとお寺巡りをしています。

グループホームでも毎年旅行に
行っています。今年は京都に行き
ました。

これからも、旅行をたくさんした
いです。できれば世界一周旅行を
したいと思っています。

(青木 節子)



グループホーム

レチオンス巣鴨

電車の運転手になってみたい。

(真下 陽子)

(ダンスを習っているので) ウエ
ディングドレスで踊りたい。

お花をたくさん植えて、自分のお
店(カフェ)をやりたい。

(熱海不二子)



歌手の石川さゆり、小柳ルミ子に
会いたい。

(本橋 和子)

手芸をもっと上手になりたい。

(池田 洋子)

グループホーム

ユーカーリ

茜の里でお友達とパン工房のお仕
事をゆつくりしていねいにやりたい。

(小島 豊)

習字をいっぱい練習して上手にな
りたい。

(中村 隆史)

目白福祉作業所のお友達と作業を
がんばりたい。

(宇賀神研一)



将 来 の 夢

みなと保育園

イルカが大好きだから水族館のインストラクターになりたい。

(みなみ はのん)

犬や猫が好きだから、ペットシヨップやさんになりたい。

(むらまつ れいか)

厳しくて、かっこよくて、良い人だから、警察官になりたい。

(やまだ こうき)



サッカーが大好きだから、絶対にサッカー選手になりたい。

(ふじた どうこ)

スケートが上手になって、アイススケートの真央ちゃんのような選手になりたい。

(くまの ふうか)

いろんな洋服が着れるので、モデルさんになりたい。

(にしだ なつき)

赤ちゃんが好きだから、保育園の先生になりたい。

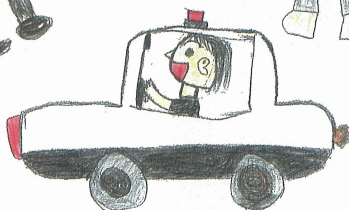
(あらお りく)

ケーキが好きだから、ケーキ屋さんになりたい。

(きむら あかね)

タイガーマスクの様になりたいから、プロレスラーになりたい。

(かとう さくや)



パパみたいになりたいから、美味しいラーメン屋さんになりたい。

(あだち ここ)

みんなの事を守りたいから、警察官になりたい。

(おざわ ひなこ)

パパも野球が好きで、かっこいい選手が沢山いるから野球選手になりたい。

(たけだ てん)

私の夢

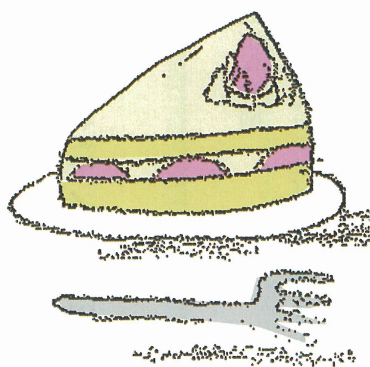
サンライズ万世

● N・Y (小学二年生)

私の将来の夢は、「パティシエ」になることです。その理由は、果物が好きだし、甘いものも好きだし、テレビを見たときにすごいかわいかったから「パティシエ」になりたいです。

私は、カッコいいから見とれてしまって、やりたいです。

みんなから「パティシエさん」って言われたいからやりたいと思います。



● R・K (小学四年生)

私の将来の夢は、「パティシエ」です。その理由は、甘いものが好きだからです。あと、テレビを見てカッコ良かったからです。あと、お母さんとたまに一緒に作っていて楽しかったからです。一番の「パティシエ」になったとき作ってみたいものは、「マカロン」です。一回食べたときすごくおいしかったからです。

● M・K (小学六年生)

小学一〜三年の時は、ケーキ屋さんでしたが、小学校六年生の今は、女優とアイドルになりたいと思っています。女優になったら演技が上手な女優になりたいです。アイドルになったら世界中の人に知ってもらえて、そして歌とダンスが上手なアイドルになりたいです。女優とアイドルになれるようにいろんなことを頑張りたいです。

● R・K (中学二年生)

私の将来の夢は、ネイリストと保育士です。ネイリストになりたい理由は、爪にデコレーションをするのが好きだからです。保育士になりたい理由は、小さい子が好きだからです。ネイリストになったら女性の爪をきれいにしたいです。保育士になったら、小さい子たちと一緒に仲良く楽しく遊びたいです。

● Y・S (中学二年生)

私の将来の夢は、地質学者か宇宙科学者になって世界で活躍することです。なぜなら、地学や宇宙についての知識を得ることとは私にとって生きがいだからです。もし、その職業に就く事ができたら、地震の発生をより正確に予測したいです。また、自分で星を見つけてオリジナルの名前をつけたいです。そのため今から夢に向かって勉強を頑張りたいです。

ボランティアの声

大山保育園

朗読ボランティア 三門ミキ子

二年前に写植オペレーターの仕事
を退職しました。現役中は、自分の
ことで一杯いっぱい、ボランティア等
を考えられませんでした。さて、仕事
を退いてみると、私にも何か出来る
ことがあるかなと思ひ、区のふれあい
センターを訪ね、掲示板で朗読の講
習会をみつけました。早速申し込み、
一年間勉強して、そこから大山保育
園を紹介されました。自宅からも近
く、徒歩で通えるのが何よりです。

「皆さん、こんにちは。三門です。
今日は絵本を読みに来ました」「こ
んには「子どもたちの元気な声と
キラキラした瞳が見渡せます。気持
ちよく迎えられると、気分良く読み
聞かせてできます。一冊終わると「もつ
と読んで」と催促されます。必ず、二
冊以上持っていきます。園の都合を



伺つてから読みます。帰りも「あり
がとうございました」「こちらこそ」
羨の良い保育園です。隔月で第三水
曜日が私の担当で、その月に入りま
すと、そわそわして図書館で絵本を
選ぶのにもきつとニヤニヤしながら選
んでいると思います。七十歳になり
ましたが、まだまだ続けたいので、身
体も鍛え、日々勉強して社会との繋
がり絶やさぬように行くつもりで
す。好きなことでお手伝い出来るの
は有り難いです。

さあ、来月も絵本の主人公の気
持ちになり、小さい子どもにも解る
よう楽しんで貰えるよう、練習しま
しょう。

原町ホーム

ボランティア 吉原みどり

一九九五年母が亡くなりました。
その葬儀の際、挨拶にみえた見知ら
ぬ二人の女性。この方たちがお世話
になっていた原町ホームの母の担当
介護士だと気付いたとたん涙がぐつ
と来ました。いつもの白衣ではなく
喪服だったので一瞬判りませんでした
が、母が毎日見ていたのは彼女た
ちの顔で、あそこでは現実の家族
だったのです。何というご縁でしょ
う。しかしこの感謝の気持ちはいつ
か返さねばと思いつつ、それから十
数年、仕事に追われる日々が続きボ
ランティアどころではありませんで
した。

二〇〇八年、リタイヤを機に音
楽学校時代の仲間三人でピアノ、フ
ルート、バイオリンのトリオを組み
月一回のお誕生会や精神障害者自



立支援センターで演奏しています。
今後の課題は本当に皆が喜んでく
れることをすることです。これが難
しい。という訳で今年三月の震災
で音楽以外もするべきと思ひシー
ツ交換も始めました。最近知った
のですが、ボランティアを長年して
いる人が結構多い事です。中には
八十五歳の人や三十五年やっている
という人もいて、私はこの世界まだ
一年生なのです。これからも元気で
頑張りたいです。

原町ホーム

ボランティア 武山富士子

昭和五十六年、ガールスカウト百七十九団が発団しました。「人に役立つ人になる」を目的にしている私達は、地元で継続して出来ることをしていきたいとの指導者・中学生・高校生の少女の考えがありました。2つの約束事を少女たちと決めました。

「1」奉仕を始めたなら、途中でやめな
いよう努力すること

「2」年度初めに今年も続けるかど
うか、ひとりひとりが考える
こと。

昭和五十七年十一月から原町ホ
ムの奉仕が始まりました。毎月第三
日曜日に行っています。

家庭での話題にもなるようにと、
今では保護者の方達にも参加して
頂いています。

平成十三年には、原町ホームから
感謝状もいただき、少女たちにはな
お一層の励みになりました。

お邪魔になっているのではないかと



と思いつつも、細々ですが三十年続
けさせていただけることに感謝して
います。「少女たちは、おじいちゃん
おばあちゃんと話すのがうれしい
役に立っているのだ」と思うとうれ
しい。と感想を言っています。これか
らもうどうぞよろしくおねがいた
します。

双葉園

ボランティア 三戸 結貴

私が初めて双葉園を訪れたのは、
昨年五月のことでした。大学三年
生になり介護等の体験をしてから、
何か自分にもできることはないかと
考え先生に相談したところ、こんな
ボランティアがあると紹介していた
だきました。それを参考に自分で探
してみようと思ったのが双葉園でした。

学習ボランティアとして私が一緒
に勉強することになったのは小学校
四年生の男の子です。元気で明るく
て素直で、すぐに私のことを受け入
れてくれました。私が来る時間にな
ると玄関のところで待っているのだ
が、実際に私が行くとき隠れたりして、
待っていないかったアピールをしてきま
す。月に二回ほんの二時間なのに自分
との時間を楽しみにしてくれてくる
のだと思うと、とても嬉しいし可愛
くて仕方ありません。私自身も毎回
楽しみにしています。

双葉園に通い始めて半年が経ちま
したが、まだ私のことを名前で呼ん
でくれたことはありません。勉強や
遊びを通じて、もっと仲良くなってい

つか名前で呼んでくれたらいいなと
思います。職員の方とも友達とも
違う立場から、いろんな話をしたり
して、しっかりと向き合っていきたい
です。

双葉園

ボランティア 勝沼 宏美

勤務先と双葉園に交流があり、
その縁でボランティアを始めて十三
年になります。週一度、小・中・高校生
に個人指導やグループレッスンなど
様々な形で英語を教えています。

始める際、同じ大人が継続して来
ることや大人と一対二で時間を過ご
すことが子どもたちにとって大切と
お伺いし回数など生活の変化に合
わせ調整させていただいたり、学習
中でも勉強以外の話題にも耳を傾
けたりしています。学校の成績が良
くなることも大切ですが、子どもた
ちには学ぶ喜びや達成感を体験し
てもらい、先々社会で新しいことを
身につける際に、自信を持って対応
できるようになって欲しいと願って
います。

私自身はと言えば、子どもたちから毎回たくさんのエネルギーをもらっています。勉強に取り組み姿、目を輝かせて語る学校での出来事や将来の夢など子どもたちの持つパワーの前には、大人のストレスなど吹き飛んでしまいます。本当はそれがここまで継続した一番の理由かもしれません。

双葉園

ボランティア 北島 俊宏

双葉園との出会いは、以前いた職場で共に働いた大先輩が双葉園で働いているということで、その先輩からボランティアのお誘いをもらったのがきっかけです。

初めはキャンプボランティアでした。そのキャンプで子どもたちと遊ぶ楽しみました。

今でも忘れない珍事件続発でしたがとても楽しかったです。このキャンプを機に年に二度のサッカー大会への付き添い、練習補佐や、月に一回程度ですがギターボランティアということでギターを教えています。

仕事や副業等の合間を見てのボランティアなので数少ないですが、ボランティアに行く度に子どもたちと様々な体験ができるので幸せです。また、このような繋がりを作ってくれた大先輩に感謝しています。

ボランティアを通じてですが双葉園の職員の方々、そして子どもたちとの繋がりが持てたことは僕の素敵な宝物です。ボランティアという立場ですが、子どもたちの為に少しでもサポートできるような、楽しく、頑張っていきたいと思っています。今後とも宜しくお願い致します。



小茂根福祉園

ボランティア 杉山 京子

梅雨の頃、お客様とお話をしていたところ(実は自営業のお店を経営)小茂根福祉園様のお花のボランティアのことを伺いました。

私自身、義父と夫を連続に亡くし心の奥深く悲しみ落ち込んでおりました。それまでは、ご近所の老人介護施設で月二回程度お花のおけいこの指導をしていたのですが、一気に仕事のみを考え合わせ、趣味などは全て排除してしまっておりました。

また元のようにお花にかかわることが少しでも出来ればと願っておりました。

ご縁をいただいて小茂根福祉園様の創作クラブの方と一緒にお花を活躍することが出来るとも幸せなひとときを得ることが出来ましたこと、心より感謝申し上げます。

利用者の方々への礼儀正しいご挨拶や日頃の作業に打ち込んでいらっしゃるお姿をお見受けするに当たり、日々の生活の中で当たり前前の所作とか、会話に至るまで本当にお勉強させられ

ることはかなりでいっぱいです。

クラブのメンバーさんは、私の指導など待つことなく缺きも上手で支援員の方と一緒のアレンジもされ、それはそれは見事です。

現在は、五名程の方ですがもう少し増えてくださると園の中を色とりどりのお花で飾れて更に素晴らしくなるのではないかと思います。

また最近はお茶を指導するボランティア(利用者のご家族)の方も加わって下さり、きれいに活けられたお花を眺めながらお茶のお作法を学びつつ、お点前を頂戴する至福のひとつきにより、忘れかけていた多忙すぎた昨今の生活に潤いをお願いいたします。



結核について

—結核は過去の病気でありません—

昭島病院 石塚 京子

明治から昭和二千年代までの長い間、「国民病」「亡国病」と恐れられた結核も、国をあげて予防や治療に取り組み、死亡率は往時の百分の一以下にまで激減しました。

しかし、人々の関心の低下や後述する多剤耐性結核などの新しいタイプ結核のため、結核の減少は鈍化しており、一九九九年には「結核緊急事態宣言」が出されました。

現在、日本の結核罹患率は二〇二〇年に人口十万人あたり一八・二人で、十人以下となっている欧米先進国に比べてまだまだ多く、世界の中では依然「中ま延国」とされています。

人口十万人あたり十人以下の「低ま延国」になるには十年以上、百万人あたり一人以下の「制圧」までには五十年かかるだろうという予測もあります。

結核とは？

結核とは、結核菌によって主に肺に炎症を起こす病気で、空気感染します。

結核菌を含んだしぶきが、せきやくしゃみと一緒に空気中に飛び散り、それを周りの人が直接吸い込むことによってうつります。

もし、結核に感染し発病しても、薬を飲む事で治す事ができます。

結核の初期症状は風邪に似ています

結核の症状は、せき・たん・発熱・だるさや寝汗など風邪の症状に似ています。

病気が進むと血痰や胸の痛みなどの症状がでてきます。

咳が二週間以上続いたら、医療機関を受診しましょう。

また、症状がなくなるとも年に一度は必ず職場・学校・住民健診などを受けましょう。

結核かどうか確かめるために検査を受けましょう

①レントゲン検査

結核の病巣は、胸のレントゲン検査をすれば比較的容易に見えます。

この巣の影が本当に結核によるものか確かめるためには、菌検査が必要です。

②菌検査

痰を染めて顕微鏡で検査する塗抹検査、菌を培養する培養検査、菌特有

の遺伝子の有無を調べるPCR検査などがあります。

③ツベルクリン反応

皮膚内にツベルクリン液を注射すると、結核菌に感染していれば赤く反応します。

ただし、BCGを受けている人も同じように反応するため注意が必要です。

結核を予防するには

①BCGワクチンを接種し、結核の免疫をつけます。乳幼児の結核予防には高い効果があり約八十%予防することができます。

しかし、十五年程度で効果が切れてしまうため油断は禁物です。

②科学予防…発病を防ぎます。

結核に感染したとわかったら、副作用の少ない結核の薬を飲んで発病を予防することができます。

これを、科学予防といえます。

薬を飲んできちんと治しましょう

現在、ほとんどの結核患者は六ヶ月〜十二ヶ月間薬を飲み続ければ治すことができます。

しかし、途中で飲むのをやめてしまうと菌が耐性化し、薬が効かなくなってしまういます。

治療が大変難しくなり、一旦治っても再発する率が高くなってしまう。

結核を予防するための注意

一人ひとりの意識と行動が結核の減少につながります。

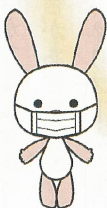
普段から自分の免疫力を低下させないよう、栄養や休養を心がけた健康な生活を送りましょう。

また、咳やくしゃみの際は、他の人につさないため一人ひとり「咳エチケット」を心がけましょう。

「公益財団法人結核予防会」

で出された文献等を参照に作成

咳エチケットについて
咳やくしゃみがあるときは、マスクをつけましょう。マスクがない時はティッシュやハンカチなどで口と鼻をおおい、周りの人から顔をそむけるようにしましょう。



第六十八回 全国老人福祉施設大会 に参加して

原町ホーム

副園長 浅見 文隆

平成二十三年十二月八日から十日にかけて高知県立県民文化ホールをメイン会場に、全国の高齢者支援施設関係者二千四百名が参加し、活発な協議が行われました。

今回の大会は、東日本大震災の復興のなかの開催でした。講演された方々が復興の困難さ、復興財源の確保の厳しさを発言されていました。

初日の講演では、「介護保険制度の課題」について、平成二十三年通常国会で成立した「介護サービスの基盤強化のための介護保険法等の一部を改正する法律」の概要の説明がありました。

- ・医療と介護の連携等
- ・介護人材の確保とサービスの質の向上
- ・高齢者の住まいの整備等
- ・認知症対策の推進

・保険者による主体的な取り組みの推進
・保険料の上昇の緩和

今年度末までに示される介護報酬の改定等を含めた、社会福祉法人が取り組むべき課題について明らかにされました。介護人材の不足は深刻な課題であり、その対応策のひとつとして、労働環境の整備の対策がされています。しかしその一方で、介護事業を含む社会福祉関係者の事業において、全産業と比較して労働基準法等の違反割合が高いという残念な報告もありました。

基調報告では、全国老人福祉施設協議会会長中田清氏より、「絆の老施協！ 創ろう科学的介護 新たな福祉」をテーマに、協議会が行った東日本大震災被災地への支援報告があり、また現地より提案された、十の要望を訴えていくとのことでした。

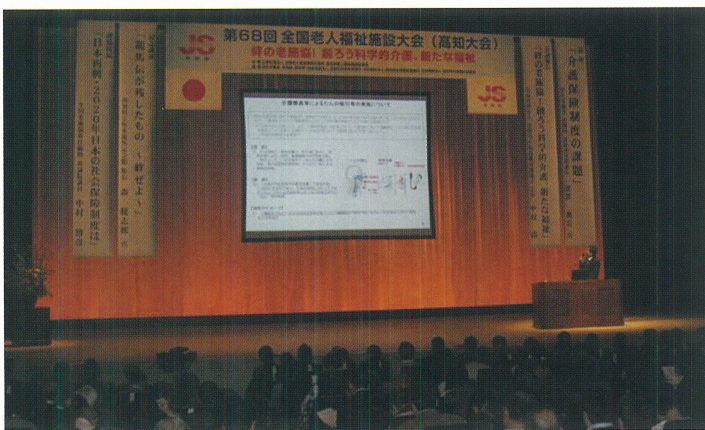
また課題提起としては「科学的介護の標準化作り」おむつゼロへの取り組み・認知症のケアを治療・予防の方向へ・経管栄養ゼロへ口腔ケアの向上等が今後求められる特別養護老人ホームの姿と示されました。今後の取り組みに向けて意義深いものでした。

二日目は、第四分科会「地域包括ケアシステムの動向と在宅サービスの課題」に参加しました。

全国老人福祉施設協議会、在宅ケア推進委員会委員長の大塚忠廣氏より、平成二十三年度介護事業経営実態調査（速報値）、また立教大学教授服部万里子氏から、二十一年度介護報酬改定後の利用者の動向等についての報告がされました。その中で今後複合型のサービスが創られる可能性も含まれているとのこと、一つの生活圏域を特養とみなし、「特養で組織マネジメントをこのサービスに活かす発想を」とアドバイスがありました。新しい方向性への対応の必要性を感じました。

三日目は「絆の老施協！ 地域の砦として 介護現場の苦闘 ～東日本大震災から学ぶもの～」と題して、びわこ学院大学准教授の烏野猛氏をコーディネーターにシンポジウムが行われました。被災者となった福祉法人として、その状況下で被災者を受け入れる等の地域福祉の拠点のひとつとして役割を果たしているという報告がありました。パネリストから「いかにリアリティ

を持った準備・訓練ができるかがポイントです」との発言がありました。それを受けて、別のパネリストが「東日本大震災の前にチリ地震津波での失敗した経験が多く利用者が職員を命を救うことができた」との発言がありました。施設においても少なからず、震災の影響があったと思います。直接利用者サービスに関わる者として、それらを踏まえた備えに努めたいと思います。



全国児童養護施設長 研究協議会報告

双葉園

園 長 長者 政孝

さる平成二十三年十一月九日、十一日の三日間、さいたま市「パレス大宮」を会場にして、第六十五回全国児童養護施設長研究協議会が開催されました。今回は「社会的養護の課題と将来像」新たな社会的養育システムを考える」をテーマに、今後の社会的養護の在り方や地域主権改革の動向等をふまえて三日間にわたって全体会、分科会等で活発な議論がなされました。大会初日は開会式の後、厚生労働省雇用均等・児童家庭局家庭福祉課長の高橋俊之氏から行政説明がありました。内容は平成二十三年七月に児童養護施設等の社会的養護の課題に関する検討会・社会保障審議会児童部会社会的養護専門委員会から出された報告書に沿っての説明でした。

まず社会的養護の理念と機能については、保護が必要な児童を施設等に入所させるだけでなく、今後は養育に

大きな困難を抱える家庭への支援を行うことの必要性を強調されました。子どもの養育の場として施設より里親を優先して考えていくという国の姿勢に通じるものであると感じました。

施設についてはより小規模化を目指すことで家庭的養護の推進を図っていくとの考えが改めて話されました。これら他に施設は被虐待児童へ「安心感」「大切にされる体験」を提供し、子どもたちに「自信（自己肯定感や主体性）を取り戻してもらおう役割を持つことが必要です。

また来年度の予算は過去最高になるでしょう。直接処遇職員の配置基準も六対一を五・五対一に改善していきたいとの決意を述べられました。

行政報告に続いて全国児童養護施設協議会会長の加賀美尤祥氏より「新たな社会的養護をめざして」と題して基調報告がありました。

自身の会長選立候補に当たった決意表明 一、最低基準の地方条例化と子ども子育て新システムへの対応 二、子どもの養育論の確立に向けて 三、児童養護施設の果たすべき新たな役割・機能 四、近未来像Ⅱの具現化 四、「子ども家庭基本法」(仮称)の構築に向けての四点で活動を進めていくとの決意が語られました。

少子化しているのに平成十二年虐待防止法が制定されてから要保護児童

は増え続けており新たな社会的子育てシステムの構築が必要となっている。また在宅支援を基本とする社会的養育、子どもの権利条約に依拠する子どもの発達権保障を基本とする制度やシステムの形成など社会的養護を必要とする子どもに対する予算措置を国はもつと考えるべきだとの決意表明がなされました。

初日の最後はSBIホールディングス代表取締役、北尾吉孝氏による「児童福祉に対する思い」と題する記念講演でした。

北尾氏は私財を投入して埼玉県に情緒障害児短期治療施設を建設され現在は社会福祉法人慈徳院の理事長として社会的養護の翼を担っていらっしゃいます。またSBI子ども希望財団も設立され施設への寄付、職員研修、自立支援、虐待防止啓発活動を四つの柱にして活動されています。それらの活動の経験談を語られ、児童への温かいまなざしを感じとても感動しました。双葉園の職員も研修に毎年派遣しています。費用を全額持つて下さるのでとても参加しやすくなっています。

大会二日目は六つの分科会があり、私は第三研究部会「新たな養育論をめざして」に参加しました。助言者として参加された日本臨床心理士会会長の村瀬嘉代子先生の「子どもはそ

ばにいる大人を皮膚感覚で言うことと為すことが一致しているかを問うている」との話に感じるところがありました。

最終日は「里親だからできること施設だからできること」というテーマでシンポジウムがありました。この大会に初めて里親さんを招待して社会的養護を担っていくための連携・協働を目指してお互いに信頼に足る実践を行っていくことを確認しました。

今大会に参加して学んだこと感じたことを今後の施設運営、児童の支援に活かしていきたいと思えます。



し
せ
じ
通
信

◆むさしの保育園◆

昨年より園舎改築工事が始まりました。東京のほぼ中心地で在りながら、広い庭を持つ、それが自慢であったむさしの保育園。多くの樹木に囲まれ、築山、タイル張りのプール、大きなローラー滑り台がおかれ、そしてかつてはアヒルと共存した広い園庭も、今は、猫の額ほどの庭になってしまいました。子どもの活動もおのずと工夫と変化を必要とされ、公園や散歩に多く出かけたがり、地域の方と交流できる機会を増やして経験を多くさせていきたいと職員と取り組みが始まりました。今までと環境が大きく



変わる中、当たり前に行ってきた園庭での行事や遊びの体験はどのような方法で行って行くのか、内容は？ 地域に向けての活動は？ 様々な行事は例年と同様な形では行えず、園庭のあるありがたさを痛感しました。このような中、夏の夕涼み会の実施について、地域の公園を借りるか、園舎の中で行うのか思案を巡らせているところに、地域の子育てサポートをしている方から「むさしのさん、今年盆踊りどうするの？一緒にやらない？」と声がかかり、即賛成。NPO法人楽弦、高円寺「ハート・トゥ・アート」、子育て支援グループゆるゆるma、ma、コーシャイム杉並和田自治会、そしてむさしの保育園の五団体協働での地域活動が始まりました。中野区、杉並区の区界と言う事でネーミングは「はじっこまつり」に決定。イメージキャラクターとして両区の一文字目を取って「すなちゃん」が誕生。盆踊りは、保育園から徒歩一〜二分の園児が良く遊びに行く和田公園。焼きそば・ヨーヨー・スノーボールすくい・フェイスペイントなどのコーナーが設けられ、一角で



は、南相馬チャリティーバザーのブースも設置、八〇〇人という大勢の方が参加し、地域で作りに上げていく参加型イベントが必要であり、求められている事を実感しました。今では「あっ！はじっこだ」「これ、すなちゃんでしょ」と言う声も聞かれ、地域に定着してきたことを感じます。十月二十九日には、「秋の音楽会」を開催。年明けには「お餅つき会」を計画。地域の活性化、地域を盛り上げていく為、また園児の様々

同 援 俳 壇

昭島荘 俳句

今朝の霜

村の道路を 挟めけり

フキ子

ほくほくの

焼き蕎麦食べて 子の笑顔

きぬえ

青色の

セーター編むの 教えてね

通子

締切の

ぎりぎりセーフ 冬の雲

香雄

セーターを

いろいろさがす バザー店

美知子

畦道に

轍のあとも お茶の花

博吉

な経験の為にも、この活動を地域に根付いたものにしていきたいと思っています。(森 記)

◆ さやま園 ◆

平成二十三年七月、清瀬市竹丘にファーム竹丘1(定員六名)とファーム竹丘2(定員七名)の共同生活援助事業(以下、GH)、共同生活介護事業(以下、CH)が開始いたしました。

さやま園がバックアップするGH・CHとしては、六寮、七寮目となります。今回、初めてファーム竹丘2には、男性の利用者も入り、今までとは、また違った雰囲気GH・CHとなっています。

また、障害程度が比較的重い方でも入寮できる、GH・CHをめざし、支援スタッフを増やすなど、円滑に運営できるように進めてきました。

しかし、GH・CHを開所するにあたっては、利用者の「入寮したい」という思いや支援者の思いだけで進め

られるものではありません。知的障害者のGH・CHを運営するためには、まず、それに適した建物が必要となってきます。

もし、適した物件があったとしても不動産関係者、オーナー、地域住民の理解を得られ難い現状が今なおあることを痛感してきました。

そんな状況の中で、今回、オーナーさんの福祉に貢献したいという温かいお話があり、GH・CHとして生活するのに適した建物を建ててい



ただきました。進めている途中に起きた震災の影響で、建築部材の確保が困難な状況が生じて、開所時期が変更にもなりました。

入所者決定が遅れ気味になったり、福祉的就労される方の通所先がなかなか決定できなかったり、開所前後は、ドタバタといった感じの日々でした。また、二寮同時に開所することは、思っていた以上に大変なことでした。

そんな状況の開所ではありませんが、利用者の方から「ここに入れて本当に嬉しい」「楽しい」といった声をお聞きすると、GH・CHが開始できたこと、そこに携われた事が、大きな喜びとなりました。

地域での生活は、多くの方々を支えられています。その方々のご理解、ご協力があつてこそ、快適に生活することができているのだと感じています。

これからも地域の皆様の力をお借りしながら、楽しく、快適な生活、かつ開かれたGH・CHにしていきたいと思う一人として頑張っています。

(渡邊 記)

万世敬老園 あらさる旬会

初霜に 菊の花 太田 義子

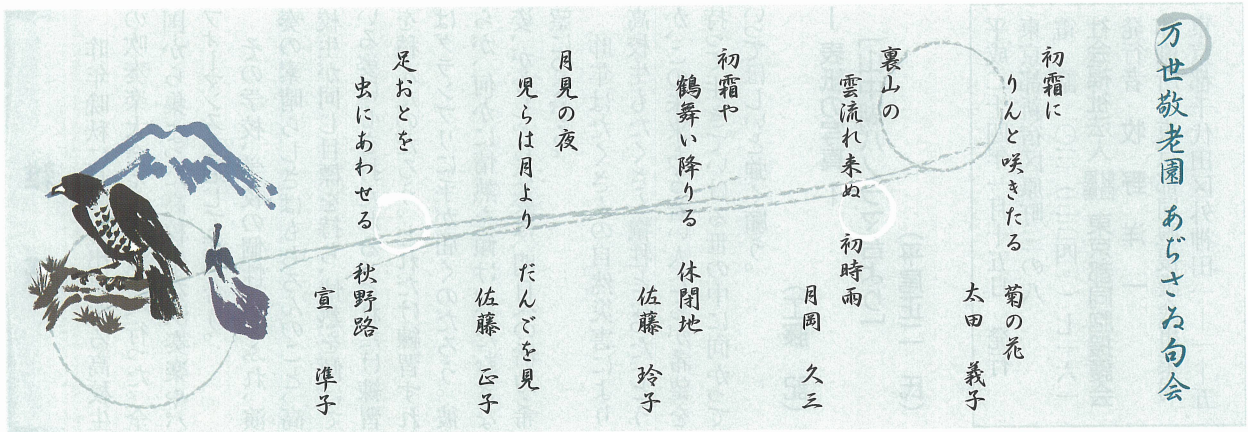
りんとききたる 菊の花 太田 義子

裏山の 雲流れ未ぬ 初時雨 月岡 久三

初霜や 鶴舞い降りる 休閑地 佐藤 玲子

月見の夜 兎らは月より だんごを見 佐藤 正子

足おとを 虫にあわせる 秋野路 宣 準子



祝表彰・感謝状受賞者

多年の功績とご協力に対し、次の方が表彰されました。
おめでとうございます。

◎全国児童養護施設協議会

永年勤続表彰

双葉園

保育士 江田 祐子

◎東京都社会福祉協議会

児童部会永年勤続表彰

高嶋の家

保育士 板場美美子

◎秋の全国交通安全運動

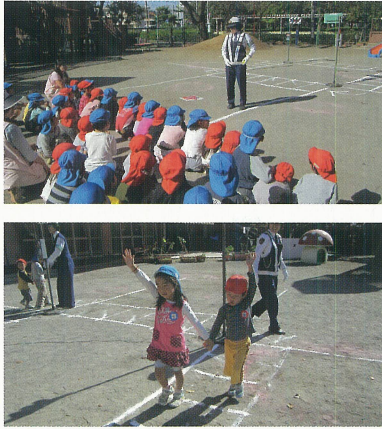
交通安全教育感謝状

警視庁昭島警察署

つつじが丘保育園

警視庁板橋警察署

大山保育園



ご 寄 付

- ◇川鍋 實◇山内 悦◇戸塚 洋子◇内田祥二◇大野武夫◇小野澤知治◇高橋昭二・俊一◇本多好真◇昭島市立昭和中学校校長 岩下伴雄◇昭島市赤十字奉仕団委員長 和田とく子◇ふじみクラブ代表 渡邊文子◇特定非営利活動法人ひだまり代表理事 深井葉子◇扶桑建設(株)代表取締役 星野宗保◇ネオハルト(株)会長 南浩一◇昭島サンセルフ 高野實◇橋本工務店 橋本誠一◇田中電設工業(株)代表取締役 田中健次◇中尾畜産(株)◇(有)海老山代表取締役 河原照文◇(有)ラッコクリンサービス◇かぶとや食品(有)取締役 柴田秀雄◇中野成光堂

後 援 会

- ◇(株)奥野設計◇宮奈多摩江◇川杉萬吉◇杉谷秀樹◇牛込理容女性部 大内光子

ご支援ありがとうございました。

(敬称略順不同)

バザーのお礼

昭和郷フェスティバル終了

昭和郷フェスティバルは平成二十三年十一月三日(祝)文化の日に行われました。

当日は天候にも恵まれ、お客様も昨年に比べ倍近くの入場で、大盛況の内に終了いたしました。

今年度は、売り上げの一部を東日本大震災の支援金として昭島市を通じて送金しました。ご来場のみなさま本当にありがとうございました。

平成二十三年度

昭和郷フェスティバル実行委員一同



雑 感

昨年晩秋に長女の出場する高校生の吹奏楽大会を見に横浜へ行った。全国から集まった高校生が吹奏楽やパフォーマンスを通して競い合う。

その学校、学校の個性にあふれ、演奏の素晴らしさはもちろんのこと、高校生が同じ目標を持ち、情熱を傾けている姿に心を打たれる。どれだけ練習を積んだのだろう。どれだけ練習すればグランプリに手が届くのだろう。彼らが、何かに情熱を傾け、ひたむきな姿、がむしゃらな姿は、明日への活力希望につながる。

昨年はたくさんさんの自然災害により高校生もたくさん犠牲となった。どうか、この未来ある若い人たちが希望を持って生きていける世の中に向かっていてほしいと強く願う。

(工藤 記)

― 表紙の写真 ―

「山中湖パノラマ台より」

(平尾正二氏)

平成二十四年一月十五日 発行
東京都新宿区原町三の八
電話 〇三(三三四一)七六一
社会福祉法人 財団法人 東京都同胞援護会
発行者 牧 野 洋 一
印刷所 東京都同胞援護会事務局
東京都千代田区外神田一―一五